ヤスクニ通信　No.283　2023 年 11 月 17 日　例会　毎月第3金曜　7:00～9:00pm（休日の時第 4 金）
発行　靖国神社国営化反対福音主義キリスト者の集い（略称「つどい」）　代表・星出卓也（Tel/Fax042-458-0251）
事務局　西東京市柳沢 2-11-13 西武柳沢キリスト教会気付　HP　https://yasukuninotsudoi.christian.jp/

ヤスクニ・レポ　283
『安斎育郎の「ウクライナ戦争論」』を読む

柴田智悦牧師（日本同盟基督教団横浜上野町教会）

2022 年 2 月 24 日、ロシアがウクライナに侵攻することで始まった「ウクライナ戦争」は、果たして「ロシアによる国際法違反の侵略戦争」なのか、「ウクライナ東部ドンバス地方のロシア語話者を救うための特別軍事作戦」なのか？安斎科学・平和事務所所長であり、ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館館長の安斎育郎氏は、この戦争の理由として「欧米によるウクライナの NATO 化」と「ウクライナのネオナチによるロシア語話者への民族浄化的軍事弾圧」の二つを挙げている。

1990 年冷戦終結後、旧ソ連圏の国々の軍事同盟である WTO（ワルシャワ条約機構、1955～1991）が解体され、欧米諸国を中心とする軍事同盟 NATO（北大西洋条約機構、1949～）だけが存続した。1990 年 2 月 9 日、アメリカのベーカー国務長官はソ連のゴルバチョフ書記長に対して「NATO 軍の管轄は 1 インチも東に拡大しない」と発言した。しかし、それに反して NATO は東方拡大を続け、1990 年に 16 カ国だった加盟国は 2020 年には 30 カ国に増大している。2008 年 4 月、NATO はルーマニアの首都ブカレストで開かれた首脳会議で、ロシアと国境を接するジョージアとウクライナの将来的な NATO 加盟を認めた。ロシアのプーチン大統領は NATO の旧ソ連圏への拡大、特に国境を接するジョージアとウクライナの NATO 加盟に強い警戒感を示し、同年 8 月、ジョージアに軍事侵攻した。ウクライナに NATO 加盟を促した行為は、このウクライナ戦争を誘発した第一原因と考えられる。

2010 年にウクライナの大統領に就任したヤヌコーヴィチ政権（親ロ）は同年 6 月、ウクライナが中立を保ち NATO に加盟しない法律を制定した。アメリカのオバマ政権は、このヤヌコーヴィチ政権を倒し新米傀儡政権を作るため、50 億ドルの巨費を投じ、ウクライナの極右民族主義者集団（ネオナチ）をも動員し、2014 年 2 月 22 日、ユーロ・マイダン・クーデターを起こしてヤヌコーヴィチ大統領を解任させた。このことに怒ったウクライナ南部のクリミア自治共和国とセヴァストポリ特別市の人々は、住民投票でロシア連邦への編入の道を選び、2014 年 3 月 18 日、ロシアはクリミアとセヴァストポリを編入する条約を締結した。一方東部ドンバス地方のドネツクとルハンスクの人々は独立国家を建てる道を選び、2014 年 4 月 7 日、ドネツク人民共和国、5 月 11 日、ルハンスク人民共和国が独立を宣言した（但し、国連加盟国で両国を国家として承認するのはロシアと北朝鮮のみ）。

2014 年、ポロシェンコ政権（親米傀儡）が成立した。ポロシェンコ大統領は、NATO 加盟を含むウクライナの軍事化を進めると共に、アゾフ大隊などのネオナチの民兵集団を国軍に編入し、ウクライナ東部のドンバス地方に住むロシア語話者に対して民族浄化とも言うべき軍事弾圧を加え始めた。こうしてドンバス内戦が始まり、「ウクライナ語を話すウクライナ人」が「ロシア語を話すウクライナ人」を軍事弾圧するという反人権的状況が深刻化して行った。ドンバス地方の都市や村々はウクライナ軍の日常的な砲撃、爆撃、狙撃などの緩慢なジェノサイドにさらされた。2014 年、ロシアは国連でドンバスでのウクライナ軍によるジェノサイドについて訴え、NHK もその様子を伝えたが、2022 年にウクライナ戦争が始まると日本のメディアはウクライナ側の非人道的行為について一切報道しなくなった。また、ポロシェンコ政権がウクライナ語を公用語としロシア語を禁止したことで、ロシア系住民が抗議デモを行ったが、過激な民族主義者によって女性や子供を含むロシア系のデモ参加者が逮捕されたり、親ロシア派住民が立てこもった労働組合の建物が放火され、46 人が死亡、200 人以上が負傷するという、「オデッサの悲劇」として知られる事件が起こった（2014 年 5 月 2 日）。

また、当時のバイデンアメリカ副大統領は、ポロシェンコ政権（2014 年 6 月 7 日～2019 年 5 月 20 日）のもとで、ウクライナ憲法を修正させ、NATO と EU 加盟を首相の憲法上の努力義務とすることを書き加えさせた（2019 年 2 月 7 日、ウクライナ憲法第 116 条）。

2014 年 9 月 5 日、ウクライナの隣国ベラルーシの首都ミンスクで、ウクライナ、ロシア連邦、ドネツク人民共和国、ルハンスク人民共和国代表が、欧州安全保障協力機構（OSCE）の援助のもと、「ドンバス地域における戦闘（ドンバス内戦）の停止についての合意文書」に調印した（ミンスク合意）。しかし、この合意は守られず、ドンバスでの休戦には至らなかった。2015 年 2 月 11 日、ロシア、ウクライナ、ドイツ、フランスの 4 カ国による首脳会議で、改めて停戦合意が成立し、停戦協定（ミンスク合意Ⅱ）が署名された。ところが、親ロシア派勢力が支配するドンバス地方に「特別な地位」を与えるという項目がウクライナ国内で大きな争点となり、結局ミンスク合意Ⅱも機能せず、ドンバス内戦はその後も続いた。ところが、2022 年 12 月 7 日のメルケル前ドイツ首相発言によって、ミンスク合意はウクライナが軍事力を強化するための時間稼ぎに過ぎなかったことが明らかになり、2022 年 12 月 9 日、プーチン大

統領は「西側諸国に対する信頼は０に近い」と表明した。

2019 年にゼレンスキー大統領が就任したが、経済、汚職、紛争という難問を解決できず、ミンスク合意Ⅱに反発する民族派の猛反発に直面し、2021 年 1 月にミンスク合意を破棄して軍事力によって失地回復を唱えるように方針を転換した。ロシアはミンスク合意の履行状況を総括する交渉を続けていたが、西側当事国に最初から守る気がない合意だったため、その交渉は破綻し、2022 年 2 月 10 日、ロシアもミンスク合意を破棄した。ウクライナ軍は公然とドンバス地方のドネツク人民共和国及びルハンスク人民共和国に攻撃を加えたので、ロシアはこれら二つの国を独立国家として承認し、友好協力相互支援協定を締結、不当な民族浄化的軍事弾圧を受けるドネツク、ルハンスク両共和国の人々を救済するため、2 月 24 日、特別な軍事作戦を開始した。

２０２３年１０月２０日奨励
ヨハネの黙示録１５章５節「あかしの幕屋である神殿」
星出卓也（日本長老教会西武柳沢キリスト教会牧師）

ヨハネの黙示録 15 章は神の審判を前にするこの世界の姿を表している個所です。15 章の冒頭の 1 節は「**七人の御使いが、最後の七つの災害を携えていた。ここに神の憤りは極まるのである。**」と始まりましたが、その最後の七つの災いがこの地にもたらされようとしている様子が「**その後、私は見た。天にある、あかしの幕屋である神殿が開かれた。**」と書かれています

「幕屋である神殿」を直訳すると「幕屋の至聖所」となります。至聖所とは天幕の中心の場所、聖なる神の臨在を現す場所です。この場所は垂れ幕に仕切られて、人々からは完全に覆われていた場所です。贖いの血を携えて大祭司だけが年に一度入ることができる。それ以外は、モーセであろうとも他の誰も入ることは許されない。そのような場所です。

しかしこの年中閉じられていた場所が、この時には大きく開かれているのです。これはどういうことなのでしょうか。神の民イスラエルの真ん中に置かれた幕屋の至聖所が垂れ幕で覆われていたのは、罪ある民が、神の聖なる臨在に触れて滅ぼされないためでした。15 節が会見の天幕のことを「あかしの幕屋」と呼んだのも、この場所が聖なる神の臨在を証ししているということを強調しています。もしこの何の覆いもない幕屋で、神の民がこの聖なる神の臨在に触れるならば、全ての人々が死に絶えることになります。

まさに、神の聖なるご臨在を表す至聖所が開け放たれたということは、それに触れる者が神の恐ろしい審判の前にさらされるということを意味しています。神の最終的な七つの災害が神の御怒りと共にこの世界に降り注がれようとしているこの時、聖なる神の臨在を表す至聖所の幕は開け放たれ、神の聖なる臨在の御前から全て罪ある者の滅びが始まるのです。全世界は、聖なる神の御前に震えおののくこととなります。

私たちは、この天の啓示が表す世界の現状をしかと見ようではありませんか。この世においては悪が栄え、主に従う民がその道を歩むが故の苦難を強いられ、あるものは剣で殺され、ある者は迫害を耐え忍び、報われない苦渋の道を歩むように見えます。そのような者はまるでこの世の外れくじを引く愚か者のよう。もっとこの世の流れに従い、罪の道を歩めば、豪勢な豊かさと、安楽の中に興じることができるように思えます。世においては輝いているように見える。しかし天においては神の至聖所は開け放たれて、今しもこの世の在り方が全て滅びし尽くされる時が近づいているのです。栄えているように見えるこの世の在り方は、神の聖なる臨在の前に、滅ぼし尽くされようとしているのです。この世界の現状をこの啓示を通して見よ。この世の行きつく様を、この啓示を通して悟れと本日の 15 章 5 節は神の子供たちに呼びかけています。

至聖所が一度だけ開け放たれた時がありました。ヘロデ神殿の時代。エルサレムの神殿の至聖所を覆う垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けて、至聖所が完全に開け放たれた時が一度だけあります。それは主イエス・キリストの贖いの死が完成した時でした。本来閉ざされなければならない至聖所が、キリストが神の御怒りを完全に引き受けたこの瞬間、神の民を覆う垂れ幕が以後不要となったということを表す出来事です。

天にあるあかしの幕屋の至聖所が開け放たれて、全世界にて神の大いなる裁きが始まろうとするその時に、イエス・キリストの贖いを持つ民だけは、恐れることなく神の聖なる臨在の前に立つことができるのです。全地が恐れおののくその時に、主イエスにある者だけが、滅びを過ぎ越された者として主の御前に立つこととなるのです。この世においては悩める主の民。しかれども、キリストの贖いを受ける民の何と幸いなことか。